

## 福井県ふるさと文学館・荒川区立ゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館

## おしどり文学館協定 特集展示

## 津村節子と吉村昭 ～歌人・俳人を描いて～



期間/2023年9月29日（金）～12月20日（水）

2017(平成29)年11月5日、福井県ふるさと文学館と吉村昭記念文学館は「おしどり文学館協定」を締結しました。福井市出身の津村節子氏、東京都・荒川区出身の吉村昭氏は、文壇で「おしどり夫婦」として有名でした。ご夫婦と同人雑誌時代より親交の深い瀬戸内寂聴氏が、開設を提唱した「おしどり文学館」になぞらえ誕生したのが、この「おしどり文学館協定」です。

福井県ふるさと文学館と吉村昭記念文学館は、両館を「おしどり文学館」として、これまで様々な活動を通して絆を深めてきました。本年は、ご夫婦の短歌や俳句に関連した作品をテーマとして取り上げます。

津村節子は小浜出身の歌人・山川登美子を描いた小説『白百合の崖』を、吉村昭は福井ともゆかりのある俳人・尾崎放哉を描いた小説『海も暮れきる』を発表しています。また、ご夫婦は、親しい編集者を交え、「石の会」という句会を始め、俳句に向き合いました。本展では、歌人・俳人を描いた小説や、夫婦の句作を紹介します。

## &lt;展示資料&gt;

項番	作家名	種別	資料名	発行年	発行者
1	津村節子	書籍	『白百合の崖』	1980年	新潮社
2	吉村昭	書籍	『海も暮れきる』	1982年	講談社
3	-	写真 パネル	新婚当時の尾崎放哉・薫	-	鳥取県立図書館蔵
4	-	写真 パネル	40歳の頃の尾崎放哉	-	鳥取県立図書館蔵
5	-	写真 パネル	句碑(常高寺)	-	-
6	津村節子	書籍	『花野』 (限定十五部のうち第拾番)	1988年	石の会
7	吉村昭	書籍	『炎天』	2009年	筑摩書房
8	-	その他	「石の会」関係資料	-	-
9	-	映像	吉村昭と俳句	1989年	吉村昭記念文学館

